

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第四次富士市地域福祉計画・富士市社会福祉協議会地域福祉計画の策定に向け基礎資料とするため、住民の日常生活の現状や意識、福祉サービスや地域サービス等に関する市民の意識を把握することを目的とした。

2 調査の内容

- ・地域生活に関すること
- ・福祉サービスに対する意識
- ・福祉施策に関すること
- ・ボランティア活動などに関すること
- ・災害時に関すること
- ・富士市社会福祉協議会に関すること

3 調査の設計

- (1) 調査地域 富士市全域
- (2) 調査対象 富士市在住の満 16 歳以上 80 歳未満の男女
- (3) 標本数 3,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査
- (6) 調査期間 平成 26 年 10 月 30 日～11 月 17 日
- (7) 調査機関 株式会社トムス

4 回収結果

- (1) 発送数 3,000 人 (100.0%)
- (2) 回収数 1,632 人 (54.4%)
- (3) 有効回収数 1,630 人 (54.3%)

※有効回収数は、回収したが記入のない（または少ない）調査票を除いて集計した数。

報告書を読む際の注意事項

- 1 比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第 2 位を四捨五入している。このため百分比の合計が 100%にならないことがある。
- 2 基数となるべき調査数は、N または調査数と表示しており、回答比率はこれを 100%として算出した。
- 3 一人の対象者が複数の回答をしてもよい設問の場合、その百分比の合計は 100%を超える場合がある。
- 4 この調査は、等間隔抽出法により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答者総数（1,630 人）を 100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が 50%であるとすると、母集団（16 歳以上の富士市民全体）の回答比率は 47.5%~52.5%の間であると推定される。

回答比率	標本誤差
50%	±2.5%
60%または 40%	±2.4%
70%または 30%	±2.3%
80%または 20%	±2.0%
90%または 10%	±1.5%

- 5 小学校区別のクロス集計において複数の回答をしてもよい設問の場合、グラフは全項目ではなく、回答の多い項目のみを掲載している。
- 6 年代別のクロス集計において、80 代以上についても記載しているが、サンプル数が少ないため、コメントは控えている。